平成３０年豪雨災害被災地支援・派遣レポート

派 遣 先　広島県坂町税務住民課
所　　属　小倉北区役所　総務企画課
氏　　名　村上　太郎
活動期間　平成３１年１月１日～平成３１年３月３１日

１　派遣概要

派 遣 先　坂町役場総務部税務住民課
担当業務　固定資産税の評価・課税等に係る業務

２　現地視察・事前引継ぎ

Ｈ３１年１月からの派遣に先立ち、Ｈ３０年１２月１８～１９日にかけて、現地視察・事前引継ぎのため派遣先を訪れた。我々の派遣に先立って本市から派遣された先達２名の案内により、土石流発生現場など主な被災現場を視察した際には、災害の凄まじさに驚き、改めて自然災害の恐ろしさを感じた。

被災状況については、この後何度も現場を訪れたり、食卓に食器が載ったまま濁流に浸かった現況写真をみたりすることになったが、慣れることはなかった。

引継ぎに際しては、固定資産税業務についての経験が全くないためやりとりに不要な時間がかかることを懸念し、事前に危機管理室を通じて入手した冊子「固定資産税評価のあらまし」などを読み、全体像をおぼろげながらも把握することができており、全くの初心者の割にはスムーズに引継ぎができたように思う。

被災状況

予習資料

３　坂町での業務

１月７日の辞令交付・関係先への挨拶を終え、午後からは実務についての説明を受けた。基本的には土地担当としての業務となるが、時々の状況に応じて、その他のこともやってもらうとのことであった。

先達２名から、１月から着任の後発２名については固定資産税業務についての経験がないことを重々伝えられていたおかげで、わかりやすく、丁寧な説明であったように感じた。ここでも、事前に予習したことが役に立った。

＜１月上旬～中旬にかけての主な業務＞

法務局から受領した登記済通知書と課税台帳の突合など、各種帳票のチェックが主な業務であった。着手直後は、「言われたとおり」にチェックしていたが、仕事に慣れてきて理屈が分かってくるに従って、効率的な進め方や、チェックの指示があった項目以外の疑問点などにも気づくようになった。

また、突合の合間に、現地調査やそれに伴う資料作成なども行った。

＜１月中旬～下旬にかけての主な業務＞

豪雨被害を受けた家屋について、滅失等の状況を台帳に反映させるための基礎資料作りが主な業務であった。これまでは、殆どが土地に係る情報を扱ってきたが、ここではどうしても家屋との関連性を考慮しなければならないため、理解度のレベルとしては１つ上を求められることとなった、

＜１月下旬～２月下旬にかけての主な業務＞

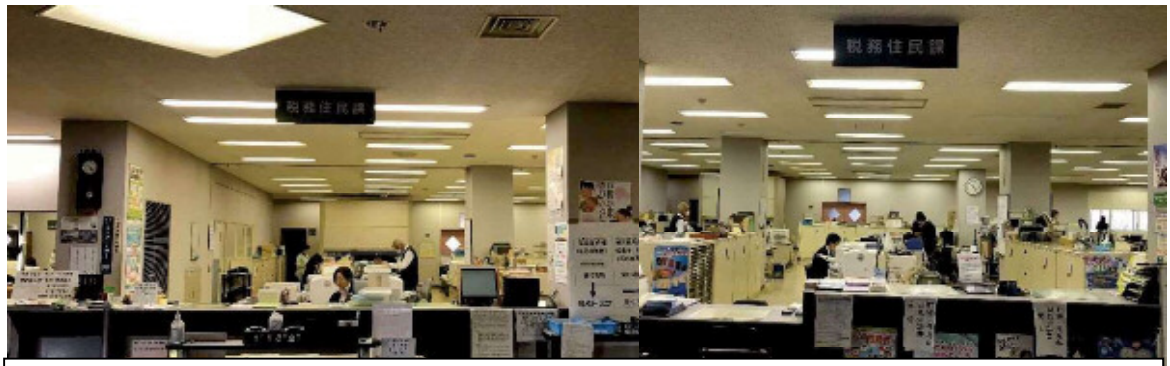
２月２０日に予定される仮課税処理に向けて、引き続き基礎資料作りを進めるとともに、家屋担当者の負担軽減のためシステムで建築図面を作成するなど、土地担当に限らない業務も行った。２月以降は、基礎資料の情報を台帳に入力するためのデータの整理や手順の検討などを任され、自分の考えをまとめて係長と協議するなど、「いわれたことをやる仕事」から「自分で課題等を考え行う仕事」に移行してきた。

＜２月下旬～３月中旬にかけての主な業務＞

２月２５日の仮課税処理後に、公費解体申請済の被災家屋の取り扱いを変更することとなったため、本課税処理に向けてのチェック、基礎資料作り、台帳への入力などを行った。また、土地関係の仕事がひと段落した際には、家屋関係データの入力補助なども行った。

＜３月中旬以降の主な業務＞

３月１１日の本課税処理後に発生した土地、家屋情報の変更を、手作業で調定データに反映させる作業が主なものであった。最終週は、その変更に基づいて納税通知書の差し替え、追加、抜き取りなどの作業を行った。



税務住民課のようす
２か所の出張所を含め、課長以下１７名で、戸籍、住基、税などに関する全ての業務を執り行っている。

執務机
１人当たり２台のパソコンを使い、データの確認や入力などを行った。

４　坂町役場について

職員数が全体で百名弱であることから、全員が顔見知りである。個人的には「一旦、人間関係がこじれるとずっと続くのかなぁ？」といった懸念も抱いたが、おおまかには、みんな仲良くやっている印象を受けた。また、皆さん人柄がよく、我々派遣者にも常に笑顔で接してくれた。

職員は、サンダルは履かない、昼食は自席で摂らない、勤務時間中は喫煙スペースに行かない、日中も職員専用の通用口からの出入りを基本とする、など、かなり高い規律意識を持って仕事に臨んでいるように感じた。

起案文書や回覧文書の取り扱いについては、本市と大きく異なる部分があり、それぞれの文化があるんだなあと思った。

坂町ジャンパーと缶バッジ

名札、職員証、分任出納員証など

5　坂町でのくらし

坂町は、昔ながらの街並みが海岸線からすぐに立ち上がった傾斜地に張り付いている。人口が１万３千人余りで、移り変わりの少ない町なので、人と人とのつながりが深く、互いが互いを思いやる風土が残っており、住んでいて気持ちがいい町であった。通勤途上で出会う小学生は挨拶をするし、中学生は町のまつりに嬉しそうに参加するなど、子どもが素直に育っているのが感じられた。

役場や町民センターをはじめ、随所に「がんばろう!!坂町」のフレーズが掲げられ、行政のみならず、ここに住む人が（皆が皆ではないにしろ）町の復興への思いを持っているのだろうと感じた。

自分の住居は、坂町役場が手配してくれたアパートであったが、これは、噂以上に壁、天井が薄く、隣室や上階の物音が手に取るように聞こえる（イコール自分の生活音も相手に響くであろう）ことが分かり、そういった意味での気遣いはかなりあった。派遣が決まった時点で、業務や生活面での愚痴は言うまいと決めていたし、３ヶ月の辛抱だと自分に言い聞かせていたが、これが半年も続くと、少し参るかもしれないなと思った。

また、住居に至る道は幅が狭く、軽自動車がようやく通るといった状況であったため、自分の車を持ち込むことはせず、先に川崎市から派遣されていた職員が置いて行った自

転車が主な交通手段となり、よく町内を走り回った。

坂町水産まつり配られた中学生手作りのスタンプラリーカード。この他にも、まつり会場内のごみ片付けなどに積極的に関わっていた。

被害の大きかった地区に来ていた移動スーパー

坂町での愛車

６　終わりに

今回のような災害では、道路や家、家財などのハードは勿論、そこに住む人々の生活、場合によっては生命までをいきなり奪ってしまうものだと言うことを実感した。そういった大規模災害に直面した自治体を支援するための職員派遣、個人的には１人が３ヶ月間でどれほどのことができただろうかと思うが、受け入れ先で少しでも心強く思ってもらえたならば幸いである。

入職以来、３ヶ月間の派遣（出張・研修）というのは初めてであったがよい経験であったし、家族のことを考慮しなくてもよいという前提であれば、また同様な支援に行きたい気持ちはある。

今回の派遣に当たって、気持ちよく送り出してくれた小倉北区総務企画課のみなさんと、派遣に係る煩雑な事務仕事を一手に引き受けてくれた危機管理課の事務担当の方々には感謝しています。ありがとうございました。

がんばろう!!坂町